

平成30年度 第1回新宿区産業振興会議 議事要旨

- 【日 時】 平成30年6月25日（月）午後6時～8時
【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A
【出席者】 委 員：植田、長山、松尾、堀米、前田、武山、青木、富田、橋本各委員
事務局：村上産業振興課長、黒澤産業振興係長、桑野主査、仲村主査
【欠席者】 遠山委員、益田委員、太田委員、友成委員
【傍聴者】 なし
【配布資料】 省略
【内 容】

1 開会

2 議事

- (1) 前回会議の振り返り
- (2) 産業振興プランにおける人材育成関連施策について
- (3) 今後の進め方について（専門部会の設置について）
資料1、資料2、資料3、資料4および資料5に基づき、事務局より説明した。

3 主な発言内容

「人材育成」について

○後継者

- ・事業承継の必要性について認識のない経営者が存在しており、具体的な承継方法の前に、事業承継の必要性を植え付けるための経営者向け事業承継セミナーは必要と感じている。
- ・新宿の特徴、新宿らしさを活かした支援策を考える必要がある。（外国人の創業支援、中小企業のM&A等）

○創業者

- ・創業の制度はすでに充実しているが、創業率が低いのはどこに課題があり、区として何を支援していくべきなのか整理が必要。
- ・創業者の年齢層を見ると、若い人が減少し、中高年が増加している状況である。検討の際は、創業者を一括りで考えるのではなく、切り分けて考えるべき。
- ・商売を初めてすぐに儲かることは難しいため、本来は、3年から5年スパンの中期的な事業展開を考えたいうえで、創業すべき。時には止めてあげることも必要。
- ・セミナー開催や各種支援メニューの制度化だけでは、チェーン店に対抗できない。創業に対する考え方を聞き、具体的な介入をしていかないと創業支援とは言えないのではないかと。
- ・アイデアはあるが、強い思いを持っている人が少ないように感じる。
- ・若い人が関心を持ち、価値を感じるには、必要な情報を正しく伝える仕組みが大事。
- ・創業前や創業後など、時系列で考えていく必要がある。やる気のある人を応援していく仕組みが必要。

○商店街

- ・商店会を活性化させるためには、やる気のある商店会長を育て、商店会にやる気のある商店主を入れることが重要。そのためには、引き続き商店会サポーターの支援が必要であり、各個店向けにセミナーを行う場合は、それぞれの業種や営業時間を考慮のうえ、きめ細かい対応が必要。
- ・やる気のある若手を役職に就けて活用していくべき。

○今後の進め方について

- 後継者や商店会活動をリードする人材に必要なことは、今までの良いものを活かしながら新しいものを作っていくことであり、現状を分析し、10年後、20年後どういう状態にしたいのかを意識することから始めないといけないし、そのような考えを醸成できる人材育成が必要。創業者は、自身が持つアイデアを確実に実践できるかどうかが大変であり、ビジネスプランコンテストを行う一方で、創業者が育っていけるような人材育成が必要。従業員教育については、新入社員のマナー教育を始めとする需要はあると思われ、どのような需要があるか精査し、その中で、区が行うのか、他と連携して行うのかを考えていく必要がある。経営者については、経営者の方が変わる機会の提供などが想定されるが、後継者や商店街と併せて考えていく。
- 今後、「経営者・後継者・商店会」と「創業者・従業員」の2つの専門部会を立ち上げて、議論を進めていく。

5 次回日程について (予定)

(1) 専門部会1-① (経営者・後継者・商店会)

日 時：平成30年8月

会 場：B I Z新宿

(2) 専門部会2-① (創業者・従業員)

日 時：平成30年8月

会 場：B I Z新宿

(3) 産業振興会議

日 時：平成30年12月

会 場：B I Z新宿

6 閉 会